

学級担任のまなざし 22

Okayama Prefectural Education Center

R2.7.7(Tue)

「間違えるところ」

初任の頃の出来事です。算数の時間でした。「 $2 \times 6 =$ 」という問題に、ある子が「8です」と答えました。その瞬間、教室に「えー!」「ちがいまーす!」という言葉が飛び交いました。「12なのに!」「そんな簡単な問題もできないの?」というささやきもありました。「8です」と答えた子は下を向いたまま、顔を上げませんでした。私は「そんなことを言っではいけません」と言うのが精一杯でした。

子どもたちは、間違いや失敗をしながら成長していくものですが、教室の中で実践するのは難しいことです。子どもは、間違いや失敗を怖がります。教室の雰囲気そうさせているのかもしれませんが、「えー!?!」「ちがいまーす!」という言葉を見ると、「間違えたら笑われる」「間違えたら恥ずかしい」という気持ちになり、「もう二度と、発表しない」となるのかもしれませんが。残念なことです。せっかく、がんばろうと思っけていても、教室の雰囲気に押しつぶされてしまうのです。

放課後、学年主任にその日の出来事を話しました。主任から「どうすれば良かったと思う?」と尋ねられ、「そうですねえ」と悩みながらも、あれこれ話をしました。

学年主任は、「例えば、どのように考えて8という答えを求めたか、みんなで考えるのはどうでしょう。きっと『 $2+6$ をしたんじゃない?』という意見が出て、『計算は、記号をよく見ないといけないね』と担任がまとめれば、『間違いのおかげで気をつけるポイントがみんなよく分かったね』となるんじゃないかな」と言われました。

その後、「教室は間違えるところだ」という蒔田晋治さんの詩を紹介してもらいました。とても気に入ったので、自分の教室の壁に掲示しておきました。